

KAKUTAとアルケミスト うたとことばの朗読音楽会「ねこはしる」

主催：舞台芸術の魅力発信事業実行委員会・武豊町教育委員会
助成：(一財)地域創造

＜東京公演レポート＞ 5月19日(木) すみだパークスタジオにて

舞台セットも衣装も小道具も、細部まで見逃せませんでした。

でも、想像力を働かせて観る「余白」もちゃんとあって。

本が好き、演劇が好き、音楽が好き、の1つでも当てはまる人にはぜひ勧めたい。

1つもあてはまらなくても、観たらどれかひとつ、もしくは全部好きになる。と、思います。

—実行委員 青木さゆり—

小さな生き物たちや、花や樹、風や雨や太陽にいたるまで、温かくやわらかな生命が、生き生きと伝わってきます。

役者のみなさんの迫力に、子どもたちも舞台にくぎ付けでした！

—実行委員 高橋洋子—



写真は東京公演の様子(撮影：相川博昭)

お客さんがおとなでも子どもでも、「観に来てくれた人を楽しませたい」という至極まっとうで、でも意外に果たされていないステージの大前提に対して、この劇団はほんとうに真摯だよなあ、と自分はいいいオッサンなのに嬉しくなった。

8月の武豊町公演時の参考にと、写真を撮ったり、飾り付けの作り方を訪ねている武豊の実行委員さんを見ながら、早くこの劇団とこのスタッフさんらをもっと交わればいいなあ、と、ひとりニヤニヤする。

原作も知っていて、上演台本も事前に拝見していて、初演もビデオで観ていた。

それでも始まった途端、役者さんの熱量と、アルケミストの音楽に気持ちを持っていかれた。ああ、こういう風に気持ちを持っていかれたくて、自分はフィクションにふれるんだよなあ、と後から思った、

ノロマなネコのランと魚の友情、それを見守る自然界の森羅万象。

いのちの残酷さと尊さ。

いろいろなものがギュッと詰まった原作の魅力が、朗読劇という既成概念を軽々飛び越えるかたちで立体化されていた。

セリフが音楽の合間に絶妙にはさまれて、イキイキとした表情の役者陣のアンサンブルが、様々に表情を変える自然の風景を目の前に立ち上がらせた。

アンサンブルに参加しているひとりひとり(と、そこに加わるアルケミストのこんやさん)が本当に楽しそうで、そんな役者を眺める客席の子どもたちも夢中になって大人たちの熱演に魅入っていた。

地の文を読まれる斉藤とも子さんの声の優しさと、魚を演じた佐賀野さんの哀しいのに笑おうとする姿が、特に印象に残った。

いいもん観たなあ。

—KAKUTAとアルケミストの紹介者 高橋正浩—

2016年8月27日(土) ゆめたろうプラザ 響きホール
1回目 14:00開演(13:30開場) 2回目 18:00開演(17:30開場)

全席自由 未就学児入場不可

前売 一般3,000円 メイト2,500円(1会員2枚まで)

学生(小中高生)1,500円 親子(一般+学生)4,000円

当日 一般・メイト3,500円 学生(小中高生)2,000円

出演：KAKUTA、アルケミスト

演出：桑原裕子(KAKUTA主宰・作・演出・役者・東宝芸能所属)

※託児・送迎車あり。8/17(水)までに要予約

※車椅子席をご利用の方は事前にご予約ください。

武豊公演
好評発売中!

原作「ねこはしる」

くどうなおこ(童話屋刊)

ちいさなたましいが
ふたつゆっくりと
ちかづきよりそい
やがてひとつに…。
「のはらうた」の
くどうなおこによる
感動の物語。

